

私とハンドボール

高校 10 期 (1958 年卒) 中江 義雄

私とハンドボールとの出会いは、高校に入学し、部室の前を通りかかった際、夕陽丘中学校の先輩で高 8 期の西田先輩に偶然出会ったことから始まりました。西田さんは、中学の時からの特待生(京都大学卒)で生徒会長をされ、尊敬する先輩でした。

小学生時代はドッジボールや相撲で抜群の能力、中学時代は陸上の他、あらゆるスポーツで活躍していた小生ですが、(お陰で女性にモテル?)… 勉強は疎かになりがちでした。何とか改心の上、高校ではスポーツに没頭するのは止め、勉学に励みたいと考えていましたが、憧れの西田先輩がハンドボール部員と知り、口説かれ、入部してしまいました。以来、ハンドボール浸けで、今秋、73 歳を迎えるにも拘らず、関西学生ハンドボール連盟(以下、学連と略す)会長の重責に引っぱり出され、今もって足を洗うことができていません。

高校入学時の自己目標からは少し乖離しましたが、長く取り組んできたハンドボール人生を決して悔やんでおりません。寧ろ”ハンドボール”に携わったこと、出会ったことが私の人生の大きな支えに成ってくれたと感謝しています。その一つは、わが国ではハンドボールと言うスポーツは、野球やサッカーと違い、マイナースポーツの域を抜け出せていません。しかし、私は、狭い国土の日本で、男女が取り組み、スポーツの基本である走・投・跳他の基本動作が含蓄されていて、スピード感に溢れ、スリル満点のこんな楽しいスポーツを、何とか

メジャースポーツに普及発展させたいと常々考え、多くの人達に訴え、お願いして参りました。そうした苦勞が、己の人生に”張り”と幅を与えてくれたと信じています。

第二は、ハンドボールに携わったお陰で、多くの先輩、後輩、友人に恵まれ、大きな”人的財産”を得ることができたことです。高津時代では、3 期 橋本、佐々木、5 期 額田、上田、6 期 山中各先輩に物心両面で優しく、支援を賜り、7 期 榎本、津田先輩の高度なプレーの他、厳しさをご指導いただきました。後輩の医師である林、鈴木(栄)には、若き時代、鼻の手術に立ち会っていただき、現在でも額田先輩には歯の治療とハンドボール以外でもお世話になり、たいへん有り難く思っています。また、田中さや、今中啓旦先生にもご指導、ご迷惑をお掛けしました。特に田中さや先生にはハンドボールの女性部長として、大学レベルで強烈な指導をされる先輩と、現役高校生との間に入れ、ご心労をお掛けしました。両先生ともハンドボールの専門家ではなかったのですが、本当に熱心にご指導いただきました。昭和 32 年最終学年に大阪府民大会初の 3 位、近畿大会出場の成果を挙げられたことが、せめてもの恩返しになったと信じています。これを契機に次年度からの府民大会優勝を始め、40 年代までの黄金時代が築かれたのでは? と自負しています。

第三は、お陰で高校卒業以降、過分の”晴れ舞台”に出させて戴いたことです。高津ハンドボール部では上記先輩の献身的な

の大阪府立体育館満席の観衆に大きな拍手をいただきました。これもまた、ABCテレビが中継した他、今では考えられない素晴らしい大会でした。楽しい思い出の一つです。

同年の秋、4年生で関西学院大学を始めて破り出場した同志社大学(関西)と芝浦工業大学(関東)との東西学生王座決定戦(於服部球技場)や、高松宮殿下の参列を賜った第二回全日本学生選手権(於西宮球技場)を持ちました。皇族参列の大会を設営できた”勲章”付の思い出です。

社会人になっての思い出は、昭和40年前半、朝日新聞の営業に勤務の傍ら、大学の監督を3年間務めました。厳しい勤務環境の中ですから、他校と異なり、学生主体で監督とは名ばかりでしたが、幸い優秀な選手に恵まれ、45年にはインカレ決勝戦で日本体育大学に敗れて準優勝に終わりましたが、チームワークの大切さ、緻密な戦略の大切さを学びました。それ以降、母校同志社大学の優勝は、成就出来ていませんが、飯田、中井、宮下のオリンピック選手を3名輩出する快挙を遂げられました。これもまた、心に残る素晴らしい思い出の”勲章”です。

書き尽くせぬ思い出、”勲章”？は多々ありますが、40～50歳台は残念ながら、ハンドボールに没頭する余裕は無く、社業に専念したため、書き残すことはあまりありません。ただ、ハンドボールで鍛えた体力・



精神力のお陰で、悔いのない人生を送れました。

最後に、スポーツ新聞社のトップになり、その功勞で園遊会に夫婦で招かれますご褒美をいただきました。苦勞させた家内への唯一のプレゼントでした。



昨今の高津ハンドボール部は苦難の時代が続いていますが、私たちの後、17期 佐藤(大阪大学)、18期 久岡、19期 川上(関西学院大学)他、優秀な選手が大学・社会人の監督やOB会長他として高津ハンドボール部の伝統を継いでいただき、嬉しい限りです。また、30期 太田(筑波大学)は母校の監督として献身努力、特に女子部の飛躍を図っていただいています。49期 平澤(筑波大学 OG=国体大阪選抜選手)。最近では61期 射手矢(大阪教育大学4年=インカレ優勝)など優秀選手が頑張っており、今後の後輩の活躍を楽しみにしています。最後に学連の会長として、パンフレットに”高津高校卒”の名前が増えることを夢見ています。

(敬称略)

[会報 第8号(2012年5月)掲載]

